

編集後記

「不況の直撃下に苦悩する障害者福祉のあり方を考える」とでもいったセンセーショナルな題を掲げるわけではないが、この特集を企画したについては、深刻な不況と今後長期にわたって続くと予想される低成長時代において、真に足が地についた障害者福祉とはどうあるべきかを考え直してみたいということがあった。言い換えれば、高度成長のおこぼれをいただくような福祉ではなく、低成長下においても堂々と「権利としての福祉」を要求し実現していけるような福祉の思想の「強靱さ」を再確認したかったのである。

そのためもあって、今回はなるべく広い範囲の方々に執筆をお願いした。社会保障としての障害者福祉の基本的な考え方について書いて下さった坂寄氏は名著「社会保障」（岩波新書）の著者であり、広い視野からこの問題をとらえるいとぐちを与えて下さったように思う。小島氏の米国における不況下の障害者福祉の新しい動向の紹介は、わが国の問題を考える上でもよい参考になろう。筆者も昨年末の訪米の際には「リハビリテーション・モデルの多様化」の傾向に強い印象を受け

た。障害者を tax-payer にすることばかりがリハビリテーションではないこと、tax-payer にはなりえない重度者の存在とそのための happiness-oriented program の必要性の認識など、アメリカの考え方にも幅が出てきた感がある。津田氏は地域での実践にもとづく福祉行政の問題の提起であり、東京都という相対的には恵まれているはずのところでの低福祉の実態が浮きぼりにされている。二本氏のは現在入手しうる限りの統計資料を集大成し分析を加えた労作であり、事実を則して福祉の問題を考えていく上でハンドブック的にも役立つものであろう。鈴木氏にうかがったお話もいくつかの問題点の解明に役立ったと思うし、また吉本氏、調氏、原井氏、森口氏らにもそれぞれの角度から問題を照らし出していたいただいた。

雑誌の性格からしても、できればこの上更に障害者福祉とリハビリテーションとの関係、接点、そのからみ合い方についてもとりあげたかったという気持ちが残るが、紙幅の制約もあり、次の機会を待ちたい。

(上田 敏)

次号予告 (第4巻第3号)

特集 切断と義肢

日本の義肢製作の現況と問題点(製作者の立場から)……川村義肢 川村 一郎
小児切断者のリハビリテーション

(都補装具研小児切断プロジェクト紹介) ……都補装具研 加倉井周一・他
動力義手の日本における現況と今後の見通し ……早大 加藤 一郎
上肢義肢装着における作業療法士の役割 ……兵庫リハセンター 大喜多 潤・他
切断術の考え方と手技

(第一線 22氏へのアンケート) ……横市大 土屋弘吉・他
義肢装具製作技術者の技能検定試験 ……都補装具研 加倉井 周一
義肢技術者協会について ……国立補装具研 飯田 卯之吉

日本リハビリテーション医学会

義肢装具委員会の歩み ……兵庫リハセンター 沢村 誠志

講座 リハビリテーション診断学(3)

(脊髄損傷における膀胱機能と

性機能の診断) ……神奈川リハセンター 宮崎 一興

編集顧問

天 児 民 和
大 島 良 雄
小 池 文 英
砂 原 茂 一
津 山 直 一
水 野 祥 太 郎

編集委員

明 石 謙
上 田 敏
大 井 淑 雄
大 川 嗣 雄
荻 島 秀 男
土 屋 弘 吉
横 山 巖

編集同人

赤 津 隆
今 田 拓
今 村 哲 夫
江 口 寿 栄 夫
小 野 啓 郎
河 邨 文 一 郎
五 味 重 春
沢 村 誠 志
杉 山 尚
武 智 秀 夫
永 井 昌 夫
中 村 隆 一
野 島 元 雄
間 得 之
長 谷 川 恒 雄
橋 倉 一 裕
平 方 義 信
福 井 園 彦
三 島 博 信
渡 辺 英 夫
飯 田 卯 之 吉
遠 藤 千 恵 子
小 川 孟
加 藤 一 郎
小 島 蓉 子
笹 沼 澄 子
鈴 木 明 子
高 田 玲 子
陳 慧 玉
土 屋 和 夫
松 村 秩

(以上五十音順、敬称略)

(細田, 田村, 鹿島)